



心學道の話 六篇下 十八

9
3895
18



皆るもが実なるもでんあけきとこの理とあり
取してりよのじやそこで佛法の方便といふ事だ
てうどア その中ももののでかめ三世といふも
あは理でいふ理をなれ生じてあるものどやか
生じてぬあといふも又死つて後といふ
るもありしてその理はむいぶんある理だやけれ
ど事だアノ佛経おどにいりてあつて又繪ふ書
てんせてあるやうふのであるのどや悪くその
又佛法よ三世因果といふ事を説いて教へるその畢竟
は此世界の小人凡夫のカノ前よりの活と天命といふ

る知ぬや一沙を不幸あるもよ遠う難きをさすふ出
會といふと、モウ それよこゝ後をうたひれて小人嘉
それば邪濫矣と孔子の作られとやうに是でんはま
ぬ是でん辨ぬとわが我若んでその苦くこのつら
よん種とさぬくの悪いよとは此のものをゆんそれ
でその者どもものこめよ過去の同縁といふものを後
て此世でかういふやうな難きをさすのんかの世でか
つよるとしてその報が来るこのじやの又は世であら
やうに結構は生れてあるやういふ言とてはてある
のんかの世でかやうくの言とてはてあるとては

執ひしやのこゝその幸不幸に付て過去の因縁
 とつゝものとして作り置きつけてその人々一ひはせ
 地の幸と羨さば我身の不幸とめつてよあけら
 さぬやうにして カノ 是ハかたぬ是ハうやうぬの
 胸のモヤくの火と打消し側のおくも燃つらぬ
 中々の大慈大悲の心方彼れと西深切なる身とや
 あいふ腕は昔後醍醐天皇様が夏宮園所一佛法
 の大意如何と西尋あされとぬ小園所の答よ
 君よとけあしけや後一法ハと世治り人のうらぐえ
 と海でよられとつゝもどやあられの如の教ども

家と家の乃とま西東に前めぬくそのうの幸
 せ不幸せ者と凶いそりや皆その人々のせれ合ふ
 ことばあふいふあふく但せ夫及但せあして居らうと
 つゝより外の教へあいるとや道頭或園の殿様一或
 西出入の士が来てつゝううあ私ハ此岸或所で訪者な
 人お者へ出合やうしてをうとび人おとんとてをうと
 とあよれよの紐紐のおづらうとやまたが物ふとんを
 るめであざりますがいつぐいつとやうたうようりふ
 びざりませぬとやされとればその殿様ハ道頭西
 名のうらひ西明君であらせらるゝとが作らうとよめられ

心學道書 卷一 六編

孫守ふるりてあざむる武士デ小弼能のおれりとのりて
 極たのりのいん人おどやあうらばどいん身ののりひと
 情じで忠孝仁義の乃と初めぬるらがよいあぜといふ
 おひらくは楠正成も定て弼能のおがらつてあらう
 又近頃あ赤徳の義士に十七人あもとふ弼能のおが
 有こてあらうが正成の後醍醐天皇へあ味方とやよう
 終は接別溪川のおのて討死とせられしまはばこそて天下
 第一の名をゆめれ又は十七士の主人の志を継つて終へり
 その仇と報じたまはばこそて末代忠臣の繼とあらうこと
 されば武士の弼能のおのあらはむ極たのりのいんあらはむ

只一まごとに忠孝仁義の乃と盡まさしまし又正成が
 時の時天子の沛はおまさしがらばして朝敵とたらうらう
 は十七士が主人の志と継つて命と情が迹かられ
 してらうらうの固くうまつておおられてあらうらう
 強は天會のいんのあまばそれと免はれしましるらう
 へそのあまねるあまば定めて決まるらうの死とせげ
 て末世のあまいのあめのやまつらうとは終へらしまし
 ことのいんやがあらうのあらはむあらはむ
 うさすれば人のいんあらはむあらはむ
 ひらうらうの天命のいんあらはむあらはむ

あしぬきでいざりまはそまにいつくさふ一掃の
 ちあしがるは是の道順なることなりやげまが本坂の
 順を断る小間地倉の忠言請といつて古道具の小
 弓物も賣するまが居るげまがえは太坂の町も所を
 安治川辺小徑で居て夫婦言一を仕あつて考で幾
 よかきうふ世後りと仕あつて考あまど夫婦もまの
 ぶん実欠ふものでまの目と考の影とあついで太坂
 の市井と古金や紙屑と買ひつると女房の肉も居る
 是袋の庵と蕭と居せんたく地のま合はるあつり
 といふやうなるをその目と考らりあつて考女房

妊娠小あつて一人の男子と産まると夫婦入致
 んで名と初と世と初その子と影よ夫婦もまを
 神改まうかせむま忠言請が目と市小出で古金
 と買ひつていつと考の上一古の庵丁や古金
 鏡や煙管や金櫃や初といふものあつその中を
 古の小房具がたなりや居るそれと賣ては又外のお
 と買又賣ては買志と考らる小あつと代官物と考
 てあるふよつて後ふは古金や又古のやうなもの買
 もあまうせは只鏡やの小刀やのまをさるやの平鏡
 どののこつと考らる小房物といふあつやうに考り

ちうしつものじやげがそれうしつ後順安町の裏
 店とかりてその西へ変宅し屋の中へあちうしつ
 とかけりてその小座をともひ萩へ又毎萩へ高
 ちう順安町の萩市へ出て餘りの家の水下とかり
 カノ 千見世といふものと出りあつてけちうは千見
 世といふものがその後の千見世へ甚ううひあひと仕
 あつてそのじやげがそりやせりあつてその田の
 高ちう大坂の新町の辺へどやようつてあつて
 へ別してまごやうで人の出も大違つてあつてそれ
 よつてカノ 中若切じやの店習子じやのといふやう

お惣業者があつて出りけてあちうの千見世で盛つてお
 とびこちうの千見世へおつてあつての賣方で人の懐中
 ぬいといふ所の千見世へおつて仕ての賣といふやうに
 まりものや肉漬で買戻しそれを賣て金もいけ仕
 あつてそのじやげがそりやアノ中若切あじりも
 のいふ代目おとあちうしつも我身はあつての居る
 ぬいものであつてその所の千見世へおつて仕ての
 のじやげがそりやあぢあぢが自然にそので因へ
 らあつてあぢあぢが身のつひぬけがあつてぬいよつて
 やいあぢあぢのやうな千見世へおつていつて賣つ

遊るものじやげかぶあうり人の物と只あれたのじや
 かうあつ償發等あつのりみ張もあうちつともあう賣たを
 して遊給があうぬとりの弱味のある代呂相あうそ
 れと見込で百のおの武捨う之扱まあるものい武集
 うきあとりみやうにあう買やうしてそれと又人へ
 賣時よはお慈の恵辰よ賣ものあう張の外よい金銀
 もみけを仕あつともものじやげかぶを等あつの正あつふ
 金とりみけるとりのあひのでいあひやつたうり盗人の同
 屋とさうとりのあひのでいあひとそこのさうとりあひ
 盗賊あつよりもかへつて罪い重いさうじやそれふあひ

道と知ぬ人といふものいあうけさあひあうじや現
 在は忠義勝もいあ右のやうか古金買の發あをさ
 いかうそれ程やでいも牙と持上る位の志なうま
 んざう悪い人でいあひのじやけもい人の人うり物あ
 及と知ぬああうい金銀のあけのよきいあうさ
 うれいツイそのやうあ不正ああひとすうやうよあうり
 ましたのじやさうあうい人といふものいあをさ
 て物の及といふものを知てあう給があうぬああうね
 そのうち忠義勝いそのさうりして主婦ふ子一人言
 しあうちあうつあうい女房が煙あついつあうい後

ありまうたゆ思き勝もよんごころあく後書とひり
 へましとまその時子の知と恥のやうくまご又ツウ
 六つ後でひつごころあが後書がうあつごむ持の言
 あふもので辛まの目とあ責のりよほひて外をかけ
 かりのれおのれ肉ふまらつごあく一ツ仕やうさふ
 もせは只朝夕の合物ごらして喰ごり喰ごり
 するが純一切でその合らふい様ごり死ごりのごま
 してあるらせふ衣の七ツある知と恥のひごりもあ
 ごとくあふう隣近所のまも^{トレハ} 氣の毒ふりのごや
 とおのひあるうち又そ如房が妊婦よあつて一人は

男子と産ごりごその子ごま孝次郎と名と附知り
 ろる風あもひをぬやうにして可愛がるらせれたおれ子
 の知と恥ごまあけあく妻はごうごやその時が知と恥の
 まごやうく七才^{あつ}う八才^{あつ}後の時ごあつごげあよ可愛や
 ろのまひごの時ごも我子の孝次郎が襪^{あつ}のあごひご
 ぎごごその知と恥ごまあつごごげあよ又道^{あつ}ごごり
 のまごづごりごあつごご道の一里ごあつごりごりな
 ろごごも皆その知と恥と恥つけて道中^{あつ}のあまごり知思
 のごごごやまごり途中^{あつ}であごごりごごりごり
 中ごあつごごあつとツイ^{あつ}ごりのおごごごりご事ご

きりり〜(一)知〜かきあ〜〜〜(一)中〜きつて(一)あ
 どのがひい〜(一)言(一)家(一)付(一)で(一)あ〜(一)付(一)が(一)それ(一)も(一)後
 家が(一)出(一)して(一)中(一)ね(一)と(一)それ(一)う(一)統(一)と(一)す(一)ら(一)掛(一)好(一)家(一)の(一)誓(一)と
 多(一)て(一)極(一)り(一)巻(一)と(一)据(一)と(一)て(一)さ(一)ん(一)〜(一)小(一)引(一)外(一)せ(一)目(一)ふ(一)合(一)は(一)ゆ(一)
 せ(一)入(一)〜(一)あ(一)〜(一)の(一)指(一)で(一)も(一)か(一)ん(一)ご(一)〜(一)で(一)も(一)る(一)合(一)の(一)もの(一)と(一)知(一)
 て(一)や(一)〜(一)それ(一)を(一)お(一)〜(一)の(一)情(一)変(一)と(一)う(一)ち(一)猪(一)と(一)あ(一)ら(一)ふ(一)も(一)合(一)と
 酒(一)と(一)は(一)女(一)ふ(一)ち(一)め(一)て(一)は(一)な(一)ハ(一)真(一)て(一)も(一)え(一)が(一>あ(一)ら(一)と(一)度(一)て(一>煮(一)
 る(一>ゆ(一>い(一>う(一>ぬ(一>屋(一>家(一>も(一>巻(一>あ(一>つ(一>〜(一>て(一>ア、(一>あ(一>ら(一>け(一>あ(一>ら(一>事(一)
 じ(一>や(一>ぢ(一>ん(一>ぞ(一>モ(一>ウ(一>〜(一>ア(一>ノ(一>く(一>び(一>方(一>の(一>肉(一>へ(一>朱(一>ね(一>や(一>う(一>り(一>仕(一)
 じ(一>ん(一>もの(一>じ(一>や(一>つ(一>〜(一>い(一>ゆ(一>じ(一>や(一>強(一>義(一>ふ(一>ら(一>じ(一>や(一>と(一>實(一>等(一)

後(一)も(一)悔(一)ん(一>で(一>も(一>え(一>来(一>お(一>の(一>れ(一>が(一>指(一>の(一>中(一>か(一>う(一>す(一>程(一>と(一>あ(一>
 と(一>鬼(一>じ(一>や(一>もの(一>除(一>る(一>〜(一>い(一>て(一>もの(一>け(一>や(一>う(一>が(一>あ(一>い(一>が(一>あ(一>ら(一>
 困(一>〜(一>もの(一>じ(一>や(一>あ(一>い(一>う(一>是(一>で(一>これ(一>天(一>命(一>ふ(一>背(一>と(一>あ(一>ら(一>
 し(一>と(一>を(一>考(一>へ(一>〜(一>ご(一>ろ(一>〜(一>ど(一>ま(一>せ(一>ん(一>じ(一>め(一>は(一>後(一>家(一>が(一>忠(一>を(一>持(一>
 が(一>方(一>へ(一>後(一>書(一>よ(一>来(一>〜(一>時(一>ハ(一>最(一>書(一>の(一>子(一>知(一>〜(一>胸(一>ハ(一>中(一>〜
 と(一>六(一>ッ(一>ウ(一>セ(一>ツ(一>で(一>母(一>よ(一>ち(一>あ(一>は(一>と(一>後(一>の(一>あ(一>い(一>子(一>の(一>も(一>あ(一>れ(一>
 ば(一>ち(一>り(一>は(一>け(一>不(一>便(一>お(一>り(一>の(一>と(一>中(一>り(一>入(一>て(一>可(一>巻(一>う(一>つ(一>〜(一>育(一>て(一>
 て(一>中(一>〜(一>程(一>が(一>あ(一>〜(一>ぬ(一>の(一>が(一>繼(一>母(一>〜(一>〜(一>もの(一>〜(一>天(一>命(一>と(一>い(一>〜(一>
 ち(一>の(一>〜(一>や(一>ふ(一>その(一>天(一>命(一>の(一>身(一>よ(一>背(一>て(一>じ(一>〜(一>入(一>つ(一>も(一>あ(一>ら(一>
 ち(一>〜(一>〜(一>た(一>ら(一>り(一>で(一>あ(一>〜(一>肉(一>の(一>身(一>上(一>の(一>〜(一>〜(一>あ(一>ら(一>つ(一>い(一>〜(一>

此の是が子の孝に節よき節が取らせしうおのれが居
 する大切を義理のあり天命の終り子とがわらうと
 思ふといふ夫の忠孝情がむじとらるるせきくそ内と道
 出させそれのいあはば大切を夫の眼と思んでん
 塗物陣存三節と不義放増極は天命とあつてもあそ
 どもかゝるばおのれがかりまうあして赤子の孝に
 節よ夫の治とさうした事今此塗物陣存三節我鬼
 のかあやしくいと恐ろしいものじやあなうませぬう人
 あり時天は勝天定て人は勝てき理も工んでする
 腹より腹分一旦は出来るものじやがそれといふことも

為通ふきふといふものもあなうきくても物兼ねるがじやそ
 きと強へといふと今なきは強は強は強は強は強は強は強
 もはやうな形のものともあつて強は強は強は強は強は強
 りのどくとも物兼ねるがじやとて強は強は強は強は強は強
 少くゆりのが自然の力強は強は強は強は強は強は強は強
 いんがあつておれがちうと上てきせよといふてあつて
 まかしてあげよきはその人の力だけの上つてもあつて
 それが夫人徳義の夫も務といふものであつてあつて
 ようもあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 までよとくといふものもあつてあつてあつてあつてあつて

出来ぬらうどやういふものと一旦よくなるやうに思つて
 のんそういやを殺さんと人の勢力どけつたのであつて、小
 とつた勢が弱くあつて、その勢が弱くては、天定て人
 子勝てえんトと勝て居て居るその處で、居る居るよ
 ていぬうといふうも出来ぬがそのうト作計トといふ
 と方が、やういふやうもいふ今、け思ふ勝が、居る居る
 塗物、肝、腎、心、脾、小腸、大腸、のうも、今まで、毒理、小、天、よ、勝て
 とう、強トとものが、今又、天定て、よく、居て、居る、かけ、子
 の、や、が、めん、と、もの、毒、ふ、もの、や、か、その、所、我、子、の、き、に
 所、の、や、う、く、ま、ご、十、七、で、あ、つ、く、何、の、を、別、も、あ、つ、く、

的のうであつて、げふが、後、家、ハ、を、通、り、塗、物、肝、腎、心、脾、
 小、腸、大、腸、の、う、も、今、ま、で、毒、理、小、天、よ、勝、て
 申、を、き、う、と、い、ふ、もの、と、申、の、い、て、い、う、く、と、思、え、そ、う、
 か、い、あ、つ、と、い、ふ、と、い、ふ、見、は、し、も、ん、や、う、け、色、と、申、く、
 そ、い、ゆ、い、ぬ、う、も、の、ゆ、い、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、
 二、日、を、二、日、を、後、よ、い、碎、て、居、て、居、る、ゆ、い、の、目、の、出、
 づ、の、情、業、の、え、ま、と、せ、づ、ら、ゆ、い、今、の、居、家、も、こ、う、い、う、と、
 かん、ご、う、と、ア、ノ、人、の、き、ぬ、や、う、い、ふ、もの、と、や、が、ぞ、
 あ、つ、ら、が、よ、あ、つ、ら、あ、つ、ら、あ、つ、ら、あ、つ、ら、あ、つ、ら、あ、つ、ら、
 子、の、き、に、所、と、お、ん、よ、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

ちうぢあよりおの色が不義としくころがうちあきてい
 るはせれおアノ人の無い人じやアノ人があの中うにけ
 方の肉へ来て是て是てり此方の身よつづきて仕す入
 ぢふぞアノ人のあふ死でぬと是もがよいのおぬ中
 おぬて是もがよいのと我も是もつひあるゆゑを
 神ハ子ぢよそれ神の事と母のひらうあもアノ神お神
 伊之神めとあぬ中うに仕す仕義とて母志人も
 安もよあぬれば方の家の為あもぬと一とぢふ母のひ
 込ごうを年の六月に或日の夕暮おを神ハ見世と所
 月戸にふまゝに海とあうらう彼の陰物神伊之神とぢ

つつりのご〜〜海と碎て庭てあこと足付並その
 や〜を以神ハ近所とあちうとちうとす〜とあ〜と
 教書よ庭てん色があんどの火の消てあきとも桑
 のるふつものご〜〜故をと約て筆お神伊之神が
 正件お〜をてあの子あもは今書とてよれお
 とおひすま〜〜ん母のうらおよきてある張〜のうら
 ち〜〜切そふとさぢう〜〜あ〜〜あて故をの約を
 ち〜〜お〜〜故をのう〜〜神の當りや神のふと
 一突よつと通〜〜とま程よ〜〜調ぢの通入つて
 ち〜〜お〜〜息いたして仕義とそれ〜〜を以神

けり仕淋とさかりううのあし出ていつと母親の寐
 て居る故に性てかゝらん今度りさうさかゝらん
 とのよてもおのきくもあつてあつてあつてあつて
 故屋の中へ這入てんきばそこあつてあつてあつてあつて
 点のねぬきと火と焼してえの故屋へ性てんきへ塗物
 肝母と序とあひあつて殺してあつてあつてあつてあつて
 とげかかるとせよん あつてあつてあつてあつてあつて
 かそれぞやうしてその中うふる遠うこのぞとつと
 と素より二人のほどやうあつてあつてあつてあつてあつて
 此節の道ちのるあり誰かかゝぬえふあつてあつてあつて

一所又男の故屋へ這入て寐あつてあつてあつてあつてあつて
 があつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 知れぬに寐あつてこのぞやけかそれううあつてあつてあつて
 ねぐとあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 きてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 ちうもあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 とやとあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 と我一とかけつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 してあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

又そのうらで塗和所修と師のわのれが親^{おんぎ}と近^{つか}きよ
 して親^{つひ}もあふぬとてうごひそののりとやよふにそ
 が大さうを遠でわつてゆくあか塗和所修と師の河上の
 近^{つひ}が深^{ふか}ふあいつく度く教へる傍問と遠やうとげな
 が是がそれ親見女も常の不行^{ふりょう}跡と足かきとて
 忠^{ちゆう}信^{しん}が女房とぬきんごそのゆくとあつてみほあを
 責^せくそ報^{ほう}が今を身へ度て来とのじやそれで塗和
 所修と師のわごうと河上のわうとづひの晴やうがあ
 ゆへ長く幸會よぬてあつてとづ終^{つひ}よ幸^{あつ}死^ししやうた
 げあされども右の後^{うしろ}あは誅^{しゆ}惟^たが親^{おんぎ}たとい入^い幸^{あつ}も

あつてよりのやまて実の子のまは所が仕業でわう
 との惟あつて母のい附ぬるあまがまづその終よぬて
 とまはまは師の一人そのあつてくるゆへとよとまは
 つくもあつて肉の物を責^せかすてぶらうとて
 かりまゝとげあが度うあぬてとてやうして仕業ま
 してげあされどもまふぬうあつてあつてあつて
 大^{おほ}儀^ぎあつてさる奴^{やつ}でもあつてあつて天^{てん}命^{めい}の性^{せい}といふのが
 具^{そな}てあるあつて一^{いつ}旦^{たん}の逆^{さか}あの人^{ひと}も欺^{あやま}る
 とけいど自身の腹^{はら}の中が淋^{しみ}ぬうとぬてもまゝとて
 親と殺^{ころ}してとるがむおまてアといふとて

あさけあひもど〜こ母のふがま〜性もも子持一境
とも母の〜もあふゆ人好をん〜も好とま〜も面白
と〜もあひげあそれでもんと活いてあるからあふ
もにあ〜つそのり序と自身う〜うら出てあふ敷よ合
〜あ〜責〜殺されと母老人の母のひ性もあもあ〜ふあゆ
ひ〜あよあつ〜三年月小大坂へ立戻り自身う〜ひよ〜ら
〜人出てあふ敷よあゆ〜こげあがそのらつ〜人出てあふ性
白砂しらかで殺〜こ子細とひ守中〜があつてい〜あ縄とかけ
られ〜村ヤシ〜嬢〜や是で安心といひ〜こげあがゆと
矢の鳴〜ふあもの〜やぬけとあ〜ひ道取〜あつ〜事

トヤそふあがけ事の始終て天命のめりかふる能考〜
あ〜ら〜トヤせ〜め思〜情あふのあ務あふをか〜い〜古金買あつ
〜女房の肉ふあ〜足袋あふの底〜らうい〜か〜あふはる
〜て〜目〜と送て性あるめい〜か〜大〜あ〜あふ
〜もゆ〜む正世を商〜てあつ〜の〜と〜ん〜が〜肉よあま
〜と〜和〜あ〜い〜てゆ〜生あふ涯あふを〜あふ〜又忠〜情が
〜みえが能あつ〜順登町へ宿習〜て行カノ 教〜る世と
出〜て不ふよ高貴とさる肉よあま〜子がけ考〜あふ帝
ドヤが〜ら〜どそれ〜げ不ふあるがあま〜あ〜よん〜ま
あ〜き〜あふあ〜敷よ道〜やあ〜ぬるよあ又女房のあ〜れ

がまほひあやしとほやうとさうらうであ子の為り殺
うれて仕舞とそふらうと実よ天命といふものいれそ
ろふものドやめうそれをあうそふらうに孟子が
爰よ命あふすといふもあ順よしてそふらう
是故小命を知りもの厳牆の下ふ立ぬ其道を盡
て死者の正命あり挫悟死者の正命あうぞゆ也と
いふてああれやうと先けあうあいは是ぎうり

あはれやうと先けあうあいは是ぎうり
あはれやうと先けあうあいは是ぎうり
あはれやうと先けあうあいは是ぎうり
あはれやうと先けあうあいは是ぎうり
あはれやうと先けあうあいは是ぎうり

